

丸子中央小学校



(1) 学級数 22 クラス

(2) 児童数 576 名

(3) 職員数 37 名

(4) 学校紹介

<http://www.school.umic.jp/marukoch/>

本校は、上田市の東部、上丸子にある。依田窪地域の商工業の中心地であり、丸子地域のほぼ中央部、依田川と内村川の合流点に位置する。中心街より 50 メートルほど坂を登ると、大樹に囲まれた閑静な高台に校舎がある。南に美ヶ原を眺望でき、北に烏帽子岳、四阿山、根子岳が遠望できる。

本校の教育目標は、「しっかりした力 広い心 すこやかな体」である。

- しっかりした力 (知) : 自ら考え、自ら学び、主体的に生きようとする力と、それを支える基礎・基本の学力
- 広い心 (徳) : 豊かな心を持ち、美しいものに感動する感性、思いやりのある心などの道徳性
- すこやかな体 (体) : ねばり強い精神と、それを支える健全な身体

日々、この学校目標の具現化に努めている。

(5) 大会テーマの受けとめと研究のねらい

本校では、学校目標を受けて、自ら考え、友達とのかかわりの中で学力をつけていく子どもの姿を願い、全校研究

美しい歌声を大切にする丸子中央小学校

テーマを「自分で考え、友と関わりながら、確かな力をつけていく子ども」と設定した。これを受け、全校で4つの柱から授業研究に取り組んでいる。

(ア) 互いのよさを認め合い、安心して力を発揮できる学級づくりをする。 (基盤)

(イ) わかる授業をし、基礎基本の定着を図る。 (基礎基本)

(ウ) のびのびと自己を表現できる子どもを育む。 (自己表現)

(エ) 主体的に追究できる子どもを育む。 (課題追究・自己実現)

公開を予定している算数では、全校研究テーマを受けて、「理由を明らかにしながら、自分の考えを持ち、問題を解決する力の育成」と研究テーマをすえた。

今年度は、子どもが自分の考えや理由をしっかり持って主体的に学べるように、課題把握→課題追究を中心にした授業改善を心掛けている。

子どもが、主体的に一時間の学びを追究していくためには、課題把握を明確にすることが大切である。算数グループでは、子どもが学習問題を理解し、課題を把握するまでの支援に、有効な視聴覚機器のあり方を研究している。

さらに、教師は、子どもの気づきのよさや考え方、つまづきなどを的確にとらえることが重要である。話し合いの大事な情報として、一人一人の思考過程が表れた学習カードを、全体の場合へ情報交換として提示することにおいても視聴覚機器の有効な支援を研究している。



（６）日常的な活用

○システムの概要

本校ではコンピュータ室にデスクトップ型パソコン４０台、職員にノート型パソコン一人１台配置されている。

○ネットワーク環境

校内の全教室に有線 LAN が配線されている。校内のどこからでもサーバー内のフォルダにアクセスでき、インターネットに接続できる環境にある。

上田市マルチメディア情報センターのサーバーで各校のデータを一元化管理している。またウイルス対策、フィルタリング対策等の情報セキュリティに関する管理も行っている。

○液晶プロジェクター、実物投影機

液晶プロジェクターが４台、実物投影機が５台ある。移動用スクリーンを利用し、教室でも手軽に映像を映すことができる。また児童の学習カードやノートをスクリーンに映したり、理科で植物や昆虫のアップを全員で観察する時にも実物投影機を有効に活用している。

○デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ

デジタルカメラが１３台、デジタルビデオカメラが７台ある。校内・校外の学習活動の記録に利用される。また、デジタルカメラの画像はホームページの更新にも利用される。体育では、自分たちの運動の様子をビデオで見合うことにも利用されている。

○e－黒板

e－黒板が３台ある。黒板にマグネツトスクリーンを貼り付け、映したパソコン画面の操作を専用ペンを使いスクリーン上で行える。映した画像に書き込みをしたり、静止画、動画を記録・再生できるので、授業の振り返りの場面でも活用できる。また、児童の顔を見て、板書するようにやりとりしながら授業を進めることができるので、児童がスクリーンの映像に集中することができる。

（７）研究を推進してきたの現時点での課題

算数科では、３年生の「かくれた数はいくつ」の単元を中心に研究を進めてきている。

視聴覚機器の特性を生かした問題提示により、「場面が具体的にイメージできる」「疑似体験ができる」「数量と結びつき実感的に捉えられる」「記憶に残りやすい」等のよさが見えてきている。

また、学習カードを実物投影機で視覚的に提示することにより、細かい部分の説明を補い、聞き手も発表者の意図を捉えやすいことも分かってきた。

一方、「視聴覚機器の問題提示場面に、子どもを関わらせていく教師の発問の仕方」「活用したい場面や学習カードの映像をどのように残して授業の中で活用していくか」「学習した内容の理解を深めるための視聴覚機器の活用の仕方」等の課題が残されており、今後さらに研究していきたい。

